

21世紀のまちづくり

～日本再生に向けた総合特区～

平成23年6月27日

日本再生プログラム推進フォーラム
都市計画研究会

はじめに

3月11日の大震災から3か月以上が経過しました。
私たちの生活は、震災以前に戻ることが出来るのでしょうか？
今回の震災は千年に一度の大震災と言われています。
これだけ大きな震災に遭遇しながら、それでも以前と何も変わらない、という訳にはいきません。
様々な面で、私たちは変わらなければなりません。
違う言い方をすれば、変わるチャンスです。

例えば…

- ・地震や津波などに対し脆弱な土地で暮らしていても良いのだろうか？
- ・自然に勝とうと思ったり原子力をコントロールできると思うことは間違い？
- ・大量輸送機関を使った物資輸送がないと成り立たない日常生活で良いのだろうか？
- ・いざという時に助け合えるような近所付き合いがもっと必要なのではないだろうか？
- ・そして、そもそも、こんなにエネルギーを使っていて良いのだろうか？

大震災を踏まえて

大震災の経験から、今後の地域の復興にあたっては、以下のような事柄を十分考慮する必要があるのではないのでしょうか。

- 災害の危険性のない、永く暮らし続けられる大地での生活を…
- 自然や未知なるものに対する畏敬の念を忘れずに…
- 遠隔地からの大量輸送に頼らず、人材、食料、エネルギー、財源などの地産地消を大切に…
- 生活の基盤である地域コミュニティを、もっと元気に、豊かに…
- 戦略的低エネルギーへの挑戦、そしてその実現を…

東北はもちろん関東、そして東京に住む人たちも、気付いたはずです。
「このままではいけない」と。

今までのままでは、「健康で持続可能な生活」とは言えません。衣食住が満喫できて、そこで生活する人たちが光り輝き、住み続けることが出来る町。そのためには、日常のライフスタイル、生活様式、毎日当たり前にやってきたこと、これらの多くを変えていかないと、本当の21世紀を迎えることは出来ないのかも知れません。

震災は、時代の流れを加速させます。今回の大震災からの復興は、真の意味での「21世紀らしいまちづくり」を促進することになります。今が時代の分かれ目です。

基本的な認識①

・物質文明は極限まで行きついた

極限まで行きついたら、次は選択の時代である。

自らの理念に基づいて、どれを選択するか、
どう編集するか、が問題。

縄文時代の生活は、環境共生で、
神々しい生活だった。

成長志向から、選択の時代へ。

そして、物質文明と精神文明の融合と相乗効果を。

基本的な認識②

・新しい社会の潮流

「世界最適生産・最適調達」の時代から、

「地域・民族ごとの個性化」の時代へ。

「金融と市場原理主義」の時代から、

「雇用が第一」の時代へ。

「生産と消費」の時代から、

「所得と雇用」の時代へ。

「量・即戦力」の時代から、

「質・熟練」の時代へ。

「安価で大量の世界調達」の時代から、

「地域自給と戦略的低エネルギー」の時代へ。

「官と民の対峙」の時代から、

「新しい公共」の時代へ。

基本的な認識③

・総合特区の狙い

行き過ぎから戻ってやり直す、
という思想。

大震災からの復興を契機として、
以前の状態には二度と戻れない、
ということを覚悟して、
新しい国づくりを。

21世紀らしいまちづくり

「行き過ぎ」から戻る…。

ライフスタイルを見直し、社会の持続可能性を高めることが大切です。

そのために、

- ・エネルギー消費を劇的に減らす
「**戦略的低エネルギー生活**」の実現
- ・大量輸送に頼らない
「**地産地消**」の実現
(資源・食糧・エネルギーの自給自足)
- ・自然との共存で明日につなげる
「**安心安全の国土利用**」の実現

21世紀らしいまちづくり

不安定なエネルギー供給や流通で不便を被るなら、劇的な低エネルギー生活と安心な地産地消の実現に取り組んだ方が、苦勞の甲斐があります。しかも、環境に優しく自然災害とも無縁の国土利用の推進で、私たちは「健康で持続可能性の高い生活」を手に入れることができます。

時代の突破口を開く技術で、暮らしを、家庭を、地域を変えることができます。エネルギー総量を劇的に減らし、それでもなお、現在よりも生活の質を向上させる社会づくりを…。

これは、21世紀らしい地域づくりの基本であり、また、「懐かしい未来」への第一歩でもあります。懐かしい風景の中に、最先端の技術を埋め込むことで、新たな豊かさを手に入れることができます。

そして、地域における究極の競争力である「個性」を、発展の原動力にすることでもあります。無限かと思われたエネルギーを駆使して、必死に地域の個性を破壊してきた歴史を、ここで転換してはいかがでしょうか。

過去を踏まえ、今という時代を定義し、未来への方向性を地域住民全体で合意する必要があります。

国家の基本理念

- **国家運営の基本理念**

**偉大なる共生社会の創造
ー共生とは進化なりー**

- **国家運営のビジョン**

**21世紀世界初の
戦略的低エネルギー社会の建設**

- **国家運営で最も大切にされるもの
健康と持続可能性**

国家運営の具体的戦略

①一人一芸 プラス チームワーク:個の花を咲かせよう

老いも若きも個性を生かして生涯現役、都市も地方も個性を生かしてそれぞれ発展。

②新しい人生設計

20代は模索、30代は現場、40代は現場のリーダー、50代は経営のリーダー、60代以降は本当にやりたいことに打ち込む第2の人生。

③少子高齢化時代に競争力のある経済

量から質へ、唯一無二の高付加価値製品の開発と世界への貢献。

④外交安保以外は徹底的に地方分権

21世紀の新しい地方国家の建設。地方で循環(人・権限・財源・資源)、地産池消。

⑤政府の役割は地域ごとに設計運営

政府の運営は、地域の実情と戦略に合わせて。

⑥日本の外交方針

ウィン・ウィンのたくましい外交。

⑦政府に対する国民負担

地域ごとに設計。原則は中負担中サービスと、新しい公共の活用。

⑧教育のこと

未だ国論統一せず。

地方、地域ごとにベストと考える教育をそれぞれやってみて10年後に再検討。

国家運営の当面の施策

(1)緊急雇用対策としての

「日本列島の大掃除」

(2)国家目標を実現するためのひな型としての

「総合特区の建設」

(3)全国の人、地域、企業を横に結ぶための

「国民大集会の開催」

総合特区の基本理念

偉大なる共生社会の創造

～美しく豊かでモラルある国づくりのひな型～

LOHASでクリエイティブな低エネルギー社会を、
舞台裏のスーパーテクノロジーが両立・補完・相互
に支え合うハイブリッドな生活を、信頼できる仲間
たちとの協働で手に入れる。

未来のサスティナビリティな生活
(ハイブリッドなクリエイティブライフ)

参考: エコイノベーションで実現するサステナブルなライフスタイル

http://openhouse.co.jp/EDI/destination2025/emaki_web_v2.pdf

総合特区で手に入れたい夢

**LOHAS社会、地産地消、戦略的低エネルギー社会
の実現によって日本再生を目指す**

人も社会も健康で持続可能性が高く、しかもそれがライフスタイルの中に組み込まれている。

平和、経済、資源・食糧・エネルギー、治山治水、心身の健康、歴史文化などあらゆる面で、持続可能性が高い社会。

その実現のために個別に対処するのではなく、すべてが成り立つライフスタイルを形成する。

次の都市計画の基本であるLOHASと地産地消、戦略的低エネルギーで、これまでの日本と上手に融合しつつ、今までにない新しい文化の創造を実現する。

総合特区で手に入れたい夢

LOHAS社会、地産地消、戦略的低エネルギー社会 の実現によって日本再生を目指す

「昭和30年代の日本」を戦略的低エネルギー生活の一つの手本に

古い日本と折り合いをつけながら、LOHASの新しい文化、社会を。
仏教と神道、欧化政策など、日本は共生・融合によって進化し続けてきた。
それでも誇るべき文化やシステムは、風土に、精神に、習慣に、残っている。
そして、それは世界の憧れとなっている。
これが日本の価値であり存在意義であり、防衛力でもある。

具体的なイメージ

- ①風景・景観・・・「森に浮かぶ国、日本」「自然と共にある国、日本」
- ②仕組み・・・LOHASと地産地消、戦略的低エネルギー、ハイブリッド
- ③暮らしぶり・・・三世代が役割を持ち、家族として、生涯現役で暮らす
- ④働き方・・・熟練形成が重視される社会
(職業によって服装や体格、ライフスタイルが異なり、一見して職業が判る)

人々の選択

低層低密の分散社会か、高層高密の集中社会か。
バーチャルな世界でのやり取りか、土に近いリアルな世界での生活か。

実現に向けて共有すべき価値観

①健康であること。持続可能性が高いこと

人の衣食住全般、そして自然や地球全体の健康を考え、持続可能性ということに価値を置いて、自分のライフスタイルを再構築。

②横型リーダーシップ(グレートコラボレーション)、 チームワークを基本とすること

人と人との結びつきを意識し、その思い、自覚と責任感で、多くの人の思いと知恵を融合。一人一人がリーダー。

③バランス感覚を大切にすること。

考え方・生き方として、バランス感覚(新旧・労使・人と自然、共済、コラボレーション)を大切にすること。道徳経済合一、モラルのある競争、労使バランス、競争の功罪を踏まえたバランス感覚など。論語や儒教をベースにしたガバナンス、生き方で。ハイブリッドな考え方で。

実現に向けて共有すべき価値観

④至誠一貫

社会に大切なことを、粘り強く、繰り返し、言い続ける。やり続ける。ぶれない。日本再生に携わる喜びを次世代に引き継ぐために努力。公共と子孫のために、血と汗と涙、努力を惜しまない。御用達の心。

⑤国民総幸福量 (GNH) 世界一をめざす

地域の豊かさを経済規模だけでは計らず、国民総幸福量を高め、みんなが幸せを感じられる社会にこそ価値を置く。価値の基準をモノからサービスへ、モノから人へ転換。物質経済から知識経済への移行を促進し、投資の対象としても物的資源より人財を重視する。

⑥生命こそプライオリティNo.1

人間の希望を次の世代へと引き継ぐために、生命と健康が第一優先課題と考える。全ての生命の源である地球とその自然を保全することを、私たちの責任と考える。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1：総合特区をつくる】

山の上から河川を経て海まで、
中山間地、都市を一体の総合特区に指定し、
実験的に21世紀らしい日本のひな型を創る。

こうした総合特区を日本全国の各地域に創り、
地域色豊かな21世紀の地域を生み出す。

その過程で生まれる高い付加価値を持った、
技術、仕組み、人材、特産物などが、
国内外に普及することで、
総合特区のコストを回収する。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

**制度:規制強化と規制緩和を併用した制度改革を
(21世紀らしい制度づくり)**

- **公共性**

皆で我慢すると

皆で得をする仕組み「公共性」を重視

- **一国二制度**

地域らしさを演出するために

地域ごとの制度設計を現場の発想で

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

技術:LOHASと低エネルギーの技術の結集を

環境技術なども含めた衣食住遊働のすべての場面で、
個別の技術を統合する。

新しい技術と仕組みとビジョンで昭和30年代の街と田舎に戻し、
日本再生のモデルを実践する。

地域で使うエネルギー総量を劇的に減らし(戦略的低エネルギー)、
なお現在より生活の質を向上させる(ハイブリッドな生活)。

再生可能エネルギーの利用を促進することによって、
脱化石燃料・脱原発を実現する。

都市のスケールメリットを活かして、
資源・エネルギーの循環利用を促進し、地域の脱炭素化をめざす。

過疎化が進む地方では、自然共生型のエコシティを実現する。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

逆・公共事業

日本の風土を復元する逆・公共事業を推進する。

不要となった道路、建物、工作物を解体撤去して植林等を行い、日本の良さが引き立つような風土を回復する。

特に風光明媚な場所の景観は徹底的に復元する。

山林、河川、海、農地も貴重な資源として維持発展

治山治水については、無理に守るのではなく、

災害の起こりにくいところに居住する。

それぞれの環境資源の活用と、風景としての美しさを維持発展させる。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

風土の再生・再構築

土地条件に合った土地利用への転換

土地の有する地理学的、地質学的、生物学的条件などを考慮し、国土利用計画・都市計画の考え方を大きく転換させる。

それによって、地域の自然環境と対峙しない、
その土地の自然環境と共生し、

土地条件に合った土地利用への転換を大胆に進め、
「健康で持続可能な暮らし」を手に入れる。

※国土地理院発行の土地条件図などを参考に

気候風土に合った住宅づくり

地域の気候風土、地形、地盤に合った住宅づくりを進める。

風土を活かすことで、エネルギーに頼り過ぎない、

地域に根差した造りの家づくり、その土地の風土や暮らし方、
生業に一番適した形での家、住宅地、地域づくりを。

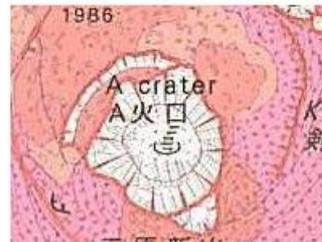
総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

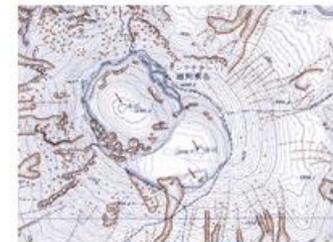
国土地理院の主題図



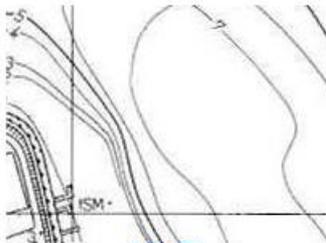
2万5千分1土地条件図



火山土地条件図



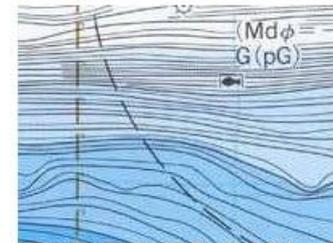
火山基本図



湖沼図



2万5千分1沿岸海域土地条件図



2万5千分1沿岸海域地形図



日本の典型地形



20万分の1土地利用図



災害状況図

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

懐かしい未来づくり

暮らしの中に地域性(風土)を組み込み、
風土との関連性ある暮らしを作る。

自然との共生、歴史との共生、文化・伝統との共生。

「らしさ」を演出すれば、美しい地域に、
戦略的低エネルギーになる。

レトロ・フューチャー(懐古的未来)・・・。

懐かしい風景の中に最先端の技術を埋め込む。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

新しい都市と田舎づくり

未来のまちづくりの見本は、過去(昭和時代)の景観の中に。

山、中山間地、川、海の昭和30年代の景観を再現しながら、中身は最新の技術と仕組みで21世紀の都市と田舎を創る。

まちを整備することは、それを支える田舎の整備にもつながる。

生活基盤である元気で豊かな地域コミュニティの醸成で、いざという時に助け合える近所付き合い、地域力を。

そして、官民が対峙する時代から、「新しい公共」の時代に。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

新しい暮らしを支える技術

建築の建設・利用・廃棄を通して、発生する環境負荷を極小に抑える。

環境負荷の少ない移動・輸送手段へとモーダルシフトを進め、不必要な移動は極力抑制(温室効果ガス排出ゼロでの移動)。

新しい技術で、資源・食糧・エネルギーの多くを、地域で生産する。

交通も家庭も新しい技術を使って、循環可能なエネルギーによって成り立たせる。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

新しい産業

地域に根差した地場産業を育成する。

食料や資源の大半を地域の中で供給し、
地元の資源を活用した商売、地元の人々の暮らしに貢献する
サービス、御用達、唯一無二の高付加価値製品を育てる。

地域で資源食料の自給率を上げる。

これを可能にする技術を開発する。

(地域で採れる原料を加工し部品や素材にし生活を成り立たせる)

地域の特産物を開発し、国内外に販売する。

(特産物があって、初めてその地域は経済的に自立する)。

地域の中の限られた資源を、これからの時代に使う道具に変える。

新しい農林水産業の勃興の上に、

新しい製造業とサービス業が多様に発展(6次産業)。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その1:総合特区をつくる】

新しい産業と暮らし

食糧自給率を、農業の制度と技術の改革、国土に合った食習慣、食品廃棄物の極小化により100%にまで高める。

また**適地適作**を進め、その土地の風土に合った農業を展開し、風景としても美しい地域づくりを進める。

すべてが**エコプロダクツ／エコサービス**である社会を実現する。また、**地産池消**をすすめ、**流通経路の短縮**を進める。

働く意思があれば、誰でもいつでも**生涯を通して働ける社会**。年をとっても、障害を持って、やりがいをもって仕事ができる。また、ワークシェアリングを進め、余った時間は農業に充てる。

意図的に体を動かし、**熟練度を高める仕事を創出**する。
第一次産業の復興から始めよう。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その2:人づくり】

新しい人材育成

これを学んでおけば一生困らない、
最低限度の生活や仕事ができる・・・そのような教育を。
最低限の人生の成功を達成できる教育を。

そのために、豊かな農地と里山を教育の現場に。
食べ物を作ると、自然の恵みを活かすことを学ぶ。
多様なものに価値を見出すことが出来るようになる。
一生が学びの場になる。

子育てや教育は、学校、地域、家庭、職場が一体となつて行う。
誰もがいつでも学べる教育環境を整えることで、
自分のペースで必要な知識を得ることが出来る社会。

古来より日本に伝わる考え方や行い、言葉などの知恵を見直し、
これからの社会づくりに生かす(エコしぐさ、エコことば、古老の知恵)。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その2:人づくり】

新しい人材活用

三世代それぞれが役割を果たす家族。生涯現役。

いかにして自分の能力を社会に活かすか。

(公益のために、尽くせるか)

民の企業家精神と実業家連携、フロンティアスピリッツ。

実務能力の高い人を。

大義のために動ける人(利潤や損得ではない)を活かす。

プランナーとオーガナイザーとコーディネーターを活用する。

(専門家を使い、日本全体を動かす)

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その3:具体的な進め方】

新しい官民の関係:「新しい公共」で住民が担う分を増やす

民主導で、官が協調(コラボレーション)

官民の連携、逆さまのピラミッド、中央と地方の連携。

地方の人が主役。中小零細企業が主役。

支援者としての行政。支援者としての中央。

全国各地の地方から政府機能を再建し、

それぞれの新しい国を創る。

東京抜きネットワークで

新しい中央と地方の関係:バランスある発展

一極集中型・独占(寡占)の否定

特産品・地域開発(住宅・産業)・インフラの分散を。

地域の力で(基本は自力で)

必要性を説き、人材を作り、地域にお金を用意させる。

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その3:具体的な進め方】

新しいファンド

平成版日本興業銀行(プロジェクト・ファイナンス)

国家破産しても個人はたくさんのお金を持っている。
総合特区を創るために必要な人材、資金、技術、技能、
さらには特産物の販売先などは、
日本再生のために創設する平成版日本興業銀行が仲介し用意。
平成版日本興業銀行は、経営と技術と市場の分かる人で構成。
実質的に総合特区のメインバンクとなる。

寄付の文化を

平成版日本興業銀行と並行し、
国を通さない新しい銀行としての、寄付の文化を！

明確な未来像を見せて、金を未来に投資させる！
そして、小さな政府の実現を！

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その3:具体的な進め方】

新しい試みのエリア

総合特区のエリア

市町村に関係なく、山から海まで、一つの流域単位で。国民運動で効果的な総合特区の創設機運を盛り上げ、官僚や政治家を誘導。

「大きなエリア」の総合特区

人と資源、お金が循環する仕組みを実験的に創設し、仕組み(制度やインフラ)を見せるエリア

「小さなエリア」の総合特区

21世紀らしい新しい国土利用、景観を大胆に示し、ビジュアルな姿を見せるエリア

総合特区実現に向けての戦略

【戦略その3:具体的な進め方】

新しい時代の扉

起爆剤(回天の原動力)で、人が集まる、金が集まる、人が走る

求心力と波及効果の高い「起爆剤」が必要。

蓄財に焦点を当てながら、未来を感じさせる先進性。

伝統的な素晴らしさと、挑戦的な実験の組み合わせ。

この時代の最高の人と技術と思想を結集する「空気」を作る。

ステップ①政治経済の行き詰まり(機能停止)

ステップ②震災復興情報掲示板を通しての情報交換

ステップ③民主導の総決起集会

民間主体で結集(関係者を集めた総決起集会、全体として始動)

ステップ④集まった仲間たちと、新しい日本づくり、国家像について議論

すごい事例をみんなで見に行こう。アニメでも見せよう。

ステップ⑤そして、新しい国づくりへ・・・具体的に動くところから始める

(新しいまちを創る特区、既存のまちを再整備する特区、など)。

※大震災からの復興を契機に、全く新しいビジョンによって世界をリードする地域づくりを